

(仮称) 瑞浪市中小企業・小規模企業振興条例意見交換会報告書

開催日時	令和3年7月27日(火) 10時~11時30分
会場	瑞浪市役所2階大会議室
参加者	20名(オブザーバー、事務局等含む)
内容	・条例制定の基本的な考え方や、条例構成について(事務局説明) ・各事業所の取り組みを通じた意見交換(ワークショップ形式)

(仮称) 瑞浪市中小企業・小規模企業振興条例の制定に向けたワークショップの実施にあたり、市内各業界を代表する経営者等11名の皆様にご参集いただきました。

当日は、事務局より条例制定に関する国、地方の動向や、本市が条例制定を目指すこととなった経緯などを説明し、条例制定における基本的な考え方をご理解いただきました。

事務局による説明後は、条例における中小企業等の役割を検討するグループ(「松」グループ)、商工会議所や金融機関の役割を検討するグループ(「鶯」グループ)、そして市の役割や市民の協力内容を検討するグループ(「桔梗」グループ)に分かれ、参加事業者が地域経済の活性化等に資する自主的な取り組みを行う際に、行政や関係団体、金融機関、市民に求められる役割や協力内容について、それぞれの立場で意見交換を行いました。

今後は、今回頂いた貴重なご意見を参考に、令和4年度当初の条例制定を目指します。お忙しい中お集まりいただきました皆様、この度は誠にありがとうございました。

【ワークショップにおける各グループ発表内容】

〔「松」グループ〕

私たち企業サイドで何が出来るかということを考えました。

まずは、事業を承継する、つないでいくということはすごく大事であるということと創業者自身が事業をつないでいく、発展させていくことが大事だねと話しました。

企業者数を増やすということで、市として企業を応援しているという取り組みであったり、情報発信が出来るの良いのかなと思います。

二つ目は、企業同士の情報発信、共有ということで、企業間同士で何か連携できることがもっともっとあると思いますので、そういったところを共有できると良いのではないかという話が出ました。

三つ目は、自社の強みの把握とそれを活用した事業経営ということで、もう一度自分たち自身の事業を振り返って、強みを伸ばしていこうということです。コロナ禍で、社会情勢も変わっていく中で、お客さんが何を求めているのかということをしっかり把握していこうという話が出ました。

最後に IT 化というところで、情報の格差であったり、高齢の方には難しいことになっていくんですが、必ず IT 化が進んでいくことは間違いないので、そういったところで自社のサービスの見直しや情報発信をしていけると良いなという話になりました。

〔「鶯」グループ〕

商工会議所と金融機関の支援策ということで、なかなか条例に盛り込めるかどうかというところはあるんですが、まず商工会議所としては、利用価値を上げるために情報のプラットフォームとして活用していきたいと思います。

その中で具体的には、商工会議所と会員間のオンライン化デジタル化を推進して、ホームページを利用して情報のやりとりが出来るとか、オンライン会議、よろず相談等、紙ベースではなくて、オンラインで提供出来る様な体制を作っていきたい。その中でそれに対するハード設備等の補助金やネット環境の勉強会・講習会を市と共にサポートしていけばいいのかなと思いました。

それから金融機関としては、市の発展と金融機関の発展はイコールですので、まずは企業数を減らさない取り組み、増やす取り組みということが必要ですので、増やすことに関しては、創業の支援、そちらに対する創業融資支援を積極的にやっていく、サポートしていきます。また、企業を減らさないということに関しては、事業承継の支援、親族承継だけでなく、業界からの M&A などの承継方法もありますので、その情報発信を積極的にやらせて頂いて、瑞浪市から企業を減らさない、雇用環境を減ら

さない取り組みをしていきたいと考えています。

全体としては、今一般的に情報を発信する時に分かりにくい言葉、例えば「SDG's」とか「DX」など、パッと見て何の事か分からないこともあるので、そういった言葉を使うのではなく、比較的分かりやすい、誰が見てもこれは自分に該当するかどうか認識出来る様な言葉を使いながら情報発信をしていくことが重要ではないかという意見が出ました。

（「桔梗」グループ）

市の支援や市民が出来ることを話させて頂きました。

まず現状認識として、瑞浪は本当に丁度良い規模の町で、大変、補助金にしても商工課等の支援にしても本当に良くやって頂いていると思っています。

七夕まつりにしても、バサラカーニバルあるいは個々の商店にしても、それから新規出店希望の創業支援についても結構きめ細かく施策をやられております。

その中で、何か物足りないよねという話になったのが、それだけの支援もあり、また頑張っている個々の事業者もあるんだけど、他のグループからも出ていましたけれども、情報共有されていない、知らない、せっかくそれぞれの努力があるのにそれが「瑞浪がこんな町になったら良いね。」とか、「こんな事が出来たら良いね。」「こういう所があったら楽しいね。」というビジョンが、意見交換だったり情報共有されたりする部分がものすごく足りないなと思っています。

駅周辺の再開発もある一方で、イベントや何かもやっていて、でもそれぞれが何となくまだ依然として良い町にしようねという一点でまとまっていない気がする。

個人的見解ですが、市に対してはそういう場をもっと増やしたり、情報を共有したり、意見交換する場があったら良いなと、個人的にはこの中にも関わっている方も何人か見えますけど、「瑞浪がこんな街になったら良いな。」という、それを担うようなまちづくり会社が欲しいなとずっと思っています。

様々な補助金や何かについても、まだまだ使いづらくて、ハードルが高くて、本当に意欲のある方が使えるのかなというところには、改善の余地はあるかなという話も出ていました。

そこの中で話していたのが「やっぱり物語が欲しいね。」とか、「頑張っている人の顔や、やっていることが見えるような、それをお互いに応援出来る様な環境ができれば良いな。」と、それが市の仕掛けであったり、市民のグループの中での動きとして出来ていくと、小規模の企業さんもそれぞれ単独で頑張っている、苦労している、悩んでいるだけじゃなくて、何かお互いに支えていける応援していけることになるんじゃないかなと、そういうところで何かこの場がスタートだったら良いなと思います。